

第4報 老後の生活設計について

大阪城南女短大（非）○喜多智子 大阪樟蔭女子大学 一棟宏子
” ” 伊海公子

目 的：これまで、働く女性として看護婦を調査対象とし、ライフスタイルと人づきあいの現状について報告した。本報では、それらの現状を踏まえたうえで老後の生活設計についての検討と問題点を分析する。

方 法：前報と同様、対象を単身居住者（423件）、未婚で家族と同居している者（348件）既婚者（332件）の3グループに分類した。

結 果：1)老後の計画で大切なものに、既婚者は①経済的側面②家族の人間関係を、未婚者は①家族の人間関係②経済的側面を順にあげている。一方、老後の不安は3グループとも経済的側面と健康管理が7～8割を占める。2)全体に老後は「趣味を楽しむ」「のんびり暮らす」という回答が多いが、既婚者では積極的な老後の過ごし方を望む傾向がみられる。3)老後において介護が必要となった時、寂しいときの話し相手や外出時の付き添いなど7項目において誰に助けを求めるかを3グループで比較した。7項目とも配偶者に介助を期待する比率が最も高く、特に既婚者に顕著である。友人への期待は、寂しいときの話し相手や外出時の付き添いにおいて、特に未婚者の期待が高い。他方、既婚者の期待はその半分以下にすぎない。既婚者は老後の生活設計において子供への期待が未婚者より低いにもかかわらず、子供に介助を期待する比率がかなり高い。また、老後の居住地の決定においても、子供と同居や近くに住む回答の比率が未婚者より高い。